



老いに光を当ててくれるもの

今年のイースター あるが体力にまかせて(復活祭)は4月21日 唯老いるのではなく、自分がより生き生きとわさわさ書いたのは、生活するために何がクリスマスのように毎切なのか、考えねばならない。春の日の後の最初の満月の日曜日に行われる祈り」がある。ロゼリ

日本ではクリスマスほど人々に馴染みはないが、キリスト教国では、イエスの復活を祝うこの日を最も大切にしている。

1カ月に2回我家でキリスト教に限らず、生活の中に祈りをしているが、先月は徳山もたらすために、このカトリック教会の柴田神父が友人宅で行われる。さて、その祈りで



徳山教会の柴田神父



結び目を解く聖母マリアの絵

加された。柴田神父は54歳とまだ若く、東日本大震災の際はボランティア活動にも積極的に参加され私も一緒にすることがある。

教会でのミサは、人数は多い。しかし信徒宅でのロザリオとミサは人数が少ないが肌が身近くに感じられ暖かさもあり少人数なりの良さがある。祈りが生活の中に感じられるとはこのようなものだ。

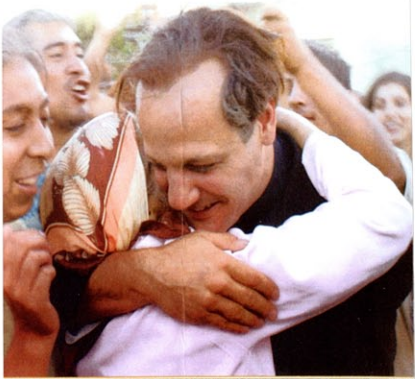
さて、カトリック教会でより神の存在を具現化する最高責任者は、「ローマ法王」である。故・ヨハネ・パウロ二世に続いて11月頃来日されるようだが、バチカン史上、最も民衆から愛されているといわれる現法王フランシスコ法王が来日されると、信者の有無にかかわらず大きな話題になるだろう。

ローマ法王はコンクラーベ(教皇選出選挙)により民主的に選出されるが、先日フランシスコ教皇が選出される

我々も数々の結び目に苦しんでいるが、フランシスコ教皇はどんな状況にあっても必ず聖母マリアがこの苦悩の結び目を解いて下さると確信を失わな

までを描いたDVD「ローマ法王になる日」を観た。彼自身自分が法王に選出されるなどとは夢にも思っていなかったという。南米のアルゼンチンのカトリックの最高責任者になるが、そこにあつたのはアルゼンチン軍との衝突であつた。しかし、彼は絶対に暴力にたよらず、常に庶民に寄り添う人で、そこにあつたのは祈りだけだった。その苦しみの中で彼は聖母マリアを絶対的に信じ、特に掲載の「結び目を解く聖母マリア」だったという。

何と言つてもこの祈りこそが、我々の寄り所にあり、生きる光を与えてくれるのではないだろうか。神はそんな我々に必ずや寄り添って下さることは間違いない。梅が咲き、桜が咲き、チューリップが咲き、間もなく芍薬が咲く。そうだと私も青春の花を咲かせよう。



ローマ法王になる日まで

ローマ法王になる日まで(DVD)